

## &lt;インフルエンザ検査について&gt;

当院で採用しているインフルエンザ検査キットでは A 型インフルエンザでは約 95~98%、B 型インフルエンザでは約 92~96%が正確度です。残り数%はハズしてしまう可能性があります。

## &lt;インフルエンザの自然経過&gt;

通常、ふつうの季節性インフルエンザの場合は、**下記の抗インフルエンザ薬を飲まなくても通常は3~5日ほどで自然に熱が下がり治ります(自然治癒)**。数%ほどに中耳炎や気管支炎、肺炎といった比較的軽い合併症を起こすことがありますが、適切に治療を行えば、子どもの場合はほとんど治ります。さらにインフルエンザには**インフルエンザ脳症**という怖い合併症もあります。これは数万~数十万人に 1 人という極めて稀な確率で起こります。万が一脳症になってしまったら、その 30%が亡くなるという統計があります。インフルエンザ脳症は現代の医療レベルでは予測することも防ぐこともできません。2009 年に流行した「新型」と呼ばれたインフルエンザ(A/H1N1pdm09)は若い方が罹りやすく頻度は極めて稀なのですが「重篤な肺炎」を起こすことがありました。当院で経験したケースでは発熱とともに、あるいはその直前に呼吸困難を来しております。他の報告例の大半でも同様でした。つまり「新型」に罹っても発熱だけの症状ならそんなにあわてなくてもよかったようです。

## &lt;インフルエンザの治療薬&gt;

1、**タミフル**

この薬は A 型インフルエンザの場合、発熱後 **48 時間以内に**服用すれば、熱の出る期間を平均して 24~36 時間程度短くする効果が証明されています。しかし、B 型のインフルエンザではその効果ははっきりしておらず、今までの多くの調査では飲んでも飲まなくてもほとんど差はなかったようです。また、一般的には、この薬を服用してもインフルエンザ脳症は予防できないと考えられています。インフルエンザの大部分は自然治癒しますので、この薬を服用する場合には下記に示すような副作用をよく考慮する必要があります。

【タミフルの軽い副作用】：頭痛、吐気、下痢といった軽い副作用が出ることがあります。この副作用はタミフルを服用した一回目に出やすく、二回目以降はそうした副作用による症状は軽くなります。ただ、一回目であまりにも重い副作用症状が出た場合には、無理せず二回目以降は飲むのを中止する方が無難です。

【タミフルの重大な副作用】：インフルエンザの方がタミフルを飲んだ後に幻覚が出てマンションから飛び降りた複数例が報告されています。また、睡眠中に呼吸が止まり死亡した複数例も報告されています。これはインフルエンザの症状だという意見と、タミフルの副作用という意見がありますが、子どもさんにタミフルを服用させる方は、念のため目を離さないように気をつけてください。

タミフルは 5 日間の服用が必要です。中途半端な期間の服用は耐性ウイルスを発生させる可能性が高く、飲み始めたら必ず 5 日間服用してください。

2、**リレンザ**

吸入する薬で 5 歳以上から使えるようになりました。タミフルのように幻覚の副作用は騒がれておりませんが一部で既に報告されています。タミフル耐性ウイルスにも効果があります。

3、**イナビル**

1 回の吸入で済みます。最近手軽なのでこちらを選ぶ方が増えてきましたが欧州では効果が不十分という理由で認可されませんでした。また、点滴静注薬の**ラピアクタ**もありますがこちらは入院になる方が対象になることが多いようです。

4、**麻黄湯**（まおうとう：漢方薬）

当院でも平成 18 年冬より積極的に処方しておりますが発熱期間も若干短縮化し楽になるようです。この薬は長期間飲む必要もなく、解熱し体が楽になれば 2~3 日で止めて構いません。解熱剤との併用は効果が半減しますのでなるべく避けてください。

## 5、その他の対症療法

去痰剤の一種である、去痰剤の一種の塩酸アンブロキシロール（商品名：ムコソルバン、ムコサル、ブルスマリン等）や抗生剤クラリスロマイシンはインフルエンザウイルスの増殖をおさえ、軽症化するという報告もありますがそれほどのものとは思えません。熱冷ましとしてインフルエンザに使っても安全なアセトアミノフェン、あるいはイブプロフェン（ブルフェン）を処方します。ポンタールやボルタレンなどの熱冷ましは、インフルエンザ脳症を重症化しますので当院で処方することはありません。インフルエンザのような高熱の出る病気の場合、アセトアミノフェンでは十分に熱が下がらない場合がありますが、その場合は無理に熱を下げないで下さい。**そもそも発熱はインフルエンザウイルスの増殖を抑えるのに必要な症状であると理解してください**。

以上の状況を検討し、インフルエンザと診断された場合には治療法をどうするのかを選択して下さい。

インフルエンザに罹らない、うつさないように。

- 流行期には人ごみを避けましょう！
- 外から帰ったら、必ず手洗い、うがいを！
- 咳エチケットを！